

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「アホとバカのお話」

いきなり「アホ」だの「バカ」などが出てきて、これを御覧のあなたはびっくりされたことと思います。本当にすみません。といいつつ、質問いたします。

「あなたは、アホといわれるのと、バカといわれるのと、どちらが嫌ですか？」

「どちらも、嫌です」という答えは聞かなかったことにして、おおむね、関西の方は「そりゃ、バカのほうでんねん」と答え、関東の方は「断じてアホです。はい」と答えるようです。

「東が四角で西が丸」（餅）、「東が鯉で西が昆布」（料理のダシ）、「東が鮭で西が鰯」（正月の魚）といわれるように、日本列島の文化が大きく分けて「東」と「西」に分かれるように言葉も東と西に分かれます。諸説あるとはいえ、「東のバカと西のアホ」説や「東西アホバカ分布図」も存在いたします。

この分布図（以下、アホバカ分布図と表記）、わが新潟県を走るフォッサマグナを境にして東と西に分かれるという説があります。つまり新潟県が東と西の文化・言葉の両者が存在する地ということですが、これは、新潟にアホとバカが同居しているということになります。実際関西の「アホ」が、主に糸魚川周辺と佐渡の一部にみられ、糸魚川以北から「バカ」が使われるように、新潟は両者が存在する地です。わたくしの独自の調査によりますと、全国でも稀な「アホとバカ」系両方で人を罵る言葉がたくさんあるようです。

たとえば、新潟の糸魚川以北で割と良く使われるのが、「うっすら」。薄らバカという共通語に比べ

て「この、うっすら！」は、より罵り度数が増して、いうは易し、でもいわれたら嫌だ！という言葉です。

またさらに、「ぼんつく！」「たくら！」という言葉も新潟で耳にします。この「ぼんつく」は、東日本の言葉「あんぼんたん」の「あん」が脱落した言葉です。片や「たくら」は、西日本文化圏でもある佐渡にみられる言葉であり、古くは、「たくらんけ」といわれていましたが、西日本の「たわけ」という言葉の類語と思われます。

ですから、東の「ぼんつく」系と西の「たくら」系とが同居している新潟県は、まさに言葉の宝庫、罵り言葉の宝庫といえましょう。ということは、新潟県民が人を罵るのが好き、と思われがちですが、いえいえそうではありません。これは、他人に対する並々ならぬ関心と観察眼を県民がもっていたということに他なりません。

ほかに、「たらず」という罵り言葉が県内で聞かれますが、調べてみると、山形、富山、島根の日本海側にみられるのも、興味深いことです。実は、このほか、とてもとてもこの場では披露できない位の表現の罵り言葉があります（どうしても知りたいという方は、あとでこっそりお教えします）。

いずれにせよ、新潟は全国でも貴重な「アホとバカ」の宝庫です。庶民の胸の内をちらりと吐露する罵り言葉、これも新潟の奥深い言葉の世界です。

